

平成 28 年度

# 全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書

～学校、家庭、地域、行政が一体となった教育活動の充実に向けて～

北海道教育委員会

平成 28 年 11 月



## 【はじめに】

平成28年度全国学力・学習状況調査を詳細に分析し、北海道版結果報告書として取りまとめました。

本報告書では、全道や管内別の状況とともに、公表に同意をいただいた市町村の状況について掲載したほか、児童生徒や学校を対象とした質問紙調査の回答状況と教科に関する調査結果などを多角的な観点から分析するとともに、本調査開始以降十年間の学力向上関連の取組を検証し、そこから見られる成果や課題を踏まえ、今後の取組の方向性などを明らかにした上で、市町村教育委員会や学校等の参考となるよう事例を紹介しています。

本道の状況は、これまでの調査結果を踏まえると、全国の平均正答率との差が全教科で縮まってきたっており、本調査の結果等を活用しながら教育活動の改善を進めている学校が増えてきているところではありますが、学校が指導を行ったと考えていても、児童生徒がそのように受け止めていない状況や、児童生徒に望ましい生活習慣が十分身に付いていないといった状況も見られることから、学校の組織的な取組のさらなる充実や家庭・地域との一層の連携の強化などが求められます。

道教委では、こうした子どもたちの学力・学習状況の課題や改善方策を共有しながら、学校、家庭、地域、行政と一体となって本道の児童生徒の学力向上に努めてまいりますので、教育関係者や保護者の方々のもとより、広く道民の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成28年11月

北海道教育委員会

## 【目次】

I	結果のポイント	2
II	全道の状況	
1	平均正答率の推移	3
2	調査結果のレーダーチャート図	5
3	正答数の状況（下位層の割合）	18
4	全道の学校の平均正答率のばらつき	20
5	A問題とB問題の相関	22
6	継続的に成果を上げている他県との比較	24
7	質問紙と学力のクロス分析	26
8	学校質問紙調査結果と児童生徒質問紙調査結果の比較	30
III	管内の状況	
1	管内の平均正答率のばらつき	34
2	各管内の状況	36
IV	市町村の状況	
1	市町村の規模別の平均正答率	94
2	市町村の平均正答率の度数分布	97
3	市町村の状況及び学力向上策	98
V	北海道の学力向上関連の取組の検証及び改善に向けた取組	
1	道教委がこれまで実施した学力向上関連の主な取組	437
2	経年比較による改善状況の検証	438
3	学力向上関連の指定事業の検証	442
4	教育効果の高い学校の取組と北海道の状況	443
5	成果と課題	446
6	今後の改善の方向性	447
7	道内の市町村、学校、家庭や地域の取組事例	448
8	参考資料	455
	執筆者・協力者一覧	467

## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査の対象

- 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部の第6学年の児童
- 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校、特別支援学校中学部の第3学年の生徒

### 3 調査の内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数・数学）
  - ・主として「知識」に関する問題〔国語A、算数・数学A〕
  - ・主として「活用」に関する問題〔国語B、算数・数学B〕
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - ・児童生徒に対する調査
  - ・学校に対する調査

### 4 調査の方式

悉皆調査

### 5 調査の実施日

平成28年4月19日（火）

### 6 平成28年4月19日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

北海道（公立）

〔参考〕全国（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	1,048	1,046(99.8%)	40,277	小学校	19,752	19,335(97.9%)	1,021,910
中学校	608	607(99.8%)	41,236	中学校	9,685	9,464(97.7%)	996,578
合計	1,656	1,653(99.8%)	81,513	合計	29,437	28,799(97.8%)	2,018,488

※ 小学校には義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部を、中学校には義務教育学校後期課程、中等教育学校及び特別支援学校中学部を含む ※ 札幌市を含む

※ 対象児童生徒の欠席により調査期日に実施できなかった学校は、実施学校数に含まれていない

## 【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 管内及び市町村の状況で掲載したグラフには、「その他」、「無回答」等の数値を記載していないものもあり、必ずしも合計が100%にならない場合がある。
- 掲載しているクロス集計等については、相関関係を示したものであり、必ずしも因果関係を示したものではないことに留意することが必要であり、データから読み取れる内容と実際の状況とをよく照らし合わせて分析する必要がある。質問紙調査の回答が特定の選択肢に偏っている項目は、正答率等との相関関係が表れにくいこともある。

## 【用語説明】

語句	説明
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。 標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。